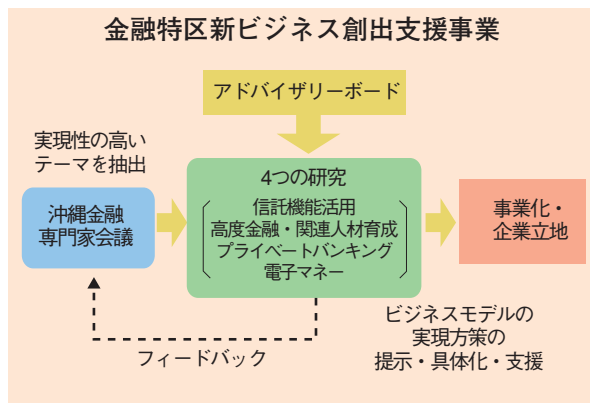


「第三回沖縄金融専門家会議」の開催！

▼沖縄金融専門家会議とは？

日本で唯一、沖縄県名護市が指定を受けた「金融業務特別地区」、いわゆる「金融特区」の活用促進のため、内外の金融専門家による金融新ビジネス提言の場として平成十五年度に第一回会議が開催され、この開催を機に「金融特区新ビジネス創出支援事業」として様々なプロジェクトが動き出しています。

そして今年も第三回会議が、九州・沖縄サミットのメイン会場となった沖縄県名護市にある「万国津梁館」を舞



台に、三月二十七、二十八日の二日間にわたり開催されました。以下では会議の様子を簡単に紹介いたします。

▼福井総裁が後援者代表として挨拶

後援者代表として第一・二回に引き続き、福井総裁が東京よりテレビ中継を通じて、「沖縄に結集した強力な金融専門家の方々が、イノベーター的な金融サービスの実現に向けて取り組み、日本の金融資本市場に新しい風を吹き込んでいることは大変心強い。今後、金融面において、多様なニーズに対応した様々な信用仲介のチャネルが用意され、効率的でダイナミックな資金配分が行われていくことが極めて重要である。日本銀行では、沖縄においてもこのような先駆的な取り組みについても引き続きサポートしていきたい」と挨拶の言葉を述べました。

▼プログレスレポート

今回の会議では、まず、前回会議以降のプログレスレポートとして次の三つの事業について報告がありました。

- ①金融等人材育成事業
修学旅行生向けの金融教育、団塊の世代や高齢者の生活設計支援などの事業を担うLEP「沖縄知の風」の設立計画の発表など。
- ②ファミリービジネスへの取り組み
ファミリービジネスの経営課題やこれに対応した金融サービスについて議論を行う「金融特区ファミリービ



写真提供：沖縄タイムス社

ジネスフォーラム」の開催や、優遇措置を備えた沖縄オフショアセンター創設の提言等。

- ③沖縄版電子マネー導入に向けた取り組み
電子マネー普及を目指すコンソーシアムの設立を報告。利用者に沖縄ポイントなどの特典を与え、観光客の消費を活性化させる仕組みを紹介。

▼民間企業によるビジネス事業化提案

次に、今回初めて専門家会議の場において、公募で選ばれた九つの民間企業による金融機能を活用したビジネスの事業化提案がなされました。これは、本会議も三回目を迎え、沖縄金融プロジェクトが関係民間企業から広く認知されつつある証左と考えられます。

発表された提案を一部紹介します

と、①シニア世代から住宅を借り上げ、生涯の賃料を保証した上で若年層へ転貸する「住み替え型リバースモーゲージ」構想、②沖縄移住への橋渡しとしての「ブログ・コミュニティ」構想、③環境に配慮する企業に投資する「エコバリューアップ・ファンド」構想、④伝統工芸・音楽について信託機能を活用して支援する「沖縄インディーズ」構想などです。

▼パネルディスカッション

最後に、これらを踏まえたパネルディスカッションが行われ、六名のパネリストから、大量定年を迎える団塊世代や高度な人材を対象にした沖縄移住促進など、様々なアイデアが提起され、地域の経済発展と「共生」する形での金融特区活性化について、活発な議論が展開されました。

《パネリスト》

池尾和人氏（慶應義塾大学経済学部教授）
大垣尚司氏（立命館大学法学部教授）
大竹美喜氏（アフラック最高顧問）
翁 百合氏（日本総合研究所主席研究員）
白石武博氏（カヌチャベリゾート社長）
コーディネーター

滝田洋一氏（日本経済新聞編集委員）
沖縄に金融知の集積を図り、それを地域活性化や日本経済・金融全体の発展につなげていくという試みは、着実な成果を挙げながら、裾野を広げつつあります。

編集後記

■時代を読み解くキーワード「動詞」シリーズインタビューの第2弾のテーマは「学ぶ」。

法隆寺五重塔を解体修理した“最後の宮大工”西岡常一棟梁の生涯でたったひとりの内弟子・小川三夫氏に、職人世界にみる「学び」の本質をお話し頂きました。千年前の建物を通して先人の職人の心と「対話」し、見事に再建の大事業を果たされた西岡棟梁。本号「にちぎんのある街」でお話を伺った陶芸家の伊勢崎淳先生も、出土した陶片から受けたメッセージを基に、途絶えていた江戸時代の半地下式穴窯を再現されたといえます。

本当に大切なことは言葉で教えられない。大事なものは「気付くか気付かないか」のカン。マニュアル通りにしか動けない人間が増えていく現代。マニュアルに頼る余り、そこに書いてあること以上のことが出来なくなっていることで、無意識のうちに失っているものが少なくないのではないのでしょうか。(AU)

■「やさしい金融経済教室」では、皆さんの暮らしの中で、意外に知られていない日本銀行とのつながりを感じて頂くことを願い、「政府の銀行」としての役割を紹介しました。関係官庁や金融機関と協力しながら進めてきた国庫金事務の電子化により、国民の皆さんの利便性が向上していることも、これを機会に知って頂ければ幸いです。(NT)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、小樽金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送は取り扱っていませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2006年 夏号
編集・発行人 湯本崇雄
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 図書印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

特別展示

「FIFAワールドカップ
サッカー大会参加国の
お金大集合を開催」

▼貨幣博物館
および小樽・
金融資料館で
は、二〇〇六
年六月に開催
されるサッカー
ー・ワールドカップ・ドイツ大会に因
み、参加三十二カ国の現行流通紙幣を一
堂に集めた特別展示を、下記のとおり
開催しています。



【貨幣博物館】

・お問い合わせ先 ☎〇三―三二七―
二〇四〇

・開催期間 二〇〇六年五月十六日
(火)～九月三日(日)

※休館日は、月曜日、祝日。

・開館時間 九時三十分～十六時三十分

※入館は十六時まで

・場所 東京都中央区日本橋本石町
一―三―

【旧小樽支店 金融資料館】

・開催期間 二〇〇六年五月三十一日

(水)～八月二十七日
(日)

※休館日は、月曜日(ただし、七月

十七日(祝)は開館し、七月十八日

(火)に休館。

・開館時間 九時三十分～十七時

※入館は十六時三十分まで

・場所 北海道小樽市色内一―十一
―十六

日本銀行ホームページに

「教育・学習コーナー」と
中高生向け教育コンテンツを
新規掲載

▼日本銀行ホームページでは、四月二
十六日(水)に、新たに次の教育関連
コンテンツを掲載しました。

(1) Quizで学ぼう! 日本銀行
金融や日本銀行にまつわるあれこれ
を、クイズ形式で楽しみながら学べる
コーナーです。

(2) 中学公民・指導用教材

「日本銀行」と私たちの暮らし
― お金と金融の働きを学ぶ ―

日本銀行政策委員会の須田審議委員
が、二〇〇五年に中学生を対象に実施し
た講義の内容を、音声による解説とムー
ビーで学べる教材に編集したものです。

(3) パンフレット

「にちぎんへようこそ!」

日本銀行本支店を見学する児童・生
徒の皆さんに配布しているパンフレッ
トです。

▼また、日本銀行ホームページに掲載
している教育・学習用のコンテンツ
を、学ぶ対象層やテーマ別に整理した
ポータルページ「教育・学習情報」コ
ーナーを新設しました。

教育関係者の方々が、授業や学習に
日本銀行ホームページをさらに活用し
ていただくのに便利なコーナーです。
ぜひご利用ください。

